



学校だよい

令和7年10月号外

前期学校評価の結果をお知らせします

学校評価は、子どもたちがよりよい教育を享受できるよう、教育活動の成果を検証して学校経営の改善を目指すためのものです。学校経営の5つの重点の取組に対して、生徒・教職員・保護者アンケートの結果等を基に分析し後期の改善策についてまとめました。

※結果は、生徒と保護者のアンケートをもとにして示しております。

※数字は全回答数に対して、選択肢A(よくあてはまる)、B(まあまああてはまる)、C(あまりあてはまらない)、D(あてはまらない)の回答数を%で示しております。

※個々の判定は絶対評価とし、以下のabcdの4段階で判定します。

a判定 (達成) …A50%以上、b判定 (ほぼ達成) …A40%以上50%未満
c判定 (未達成) …A30%以上40%未満、d判定 (未達成) …A30%未満

※家庭・地域との連携に関しては、肯定的回答 (A+B) を重視し、判定基準を変えてあります。

a判定 (達成) …A+B 80%以上、b判定 (ほぼ達成) …A+B 40%以上50%未満
c判定 (未達成) …A+B 30%以上40%未満、d判定 (未達成) …A+B 30%未満

○学校経営の5つの重点1 授業力向上（確かな学力を身につけさせる）について

a判定 ①チャイムスタートができている

- ②授業の始めと終わりのあいさつをきちんとしている
- ⑥宿題や提出物は、期限を守ってきちんと提出している
- ④授業中、友達や先生が話をしているとき、注目して聴いている

b判定 ⑫授業は分かりやすい

授業中、友達や先生が話をしているとき、反応して（うなずき、相づちなど）聴いている

c判定 ⑨授業では、課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思う

- ⑩授業では、話し合う活動やまとめを通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている
- ⑧今している勉強は将来に役立つと思う
- ⑦学年の目標以上の時間をかけて、家庭学習に取り組んでいる（1年60分、2年90分、3年120分）
- ⑬大人になったときの夢や仕事について考えることがある

d判定 ③授業では、正しい姿勢を心がけている

- ⑭中学校卒業後の進路のことについて、家庭で話している

生徒				保護者			
A	B	C	D	A	B	C	D
66%	33%	0%	0%				
69%	28%	2%	1%				
58%	36%	6%	1%				
52%	46%	2%	0%				
46%	50%	4%	0%	10%	66%	22%	3%
42%	47%	11%	0%				
39%	49%	11%	1%				
39%	50%	10%	1%				
35%	53%	8%	4%				
32%	45%	19%	4%				
37%	35%	22%	6%				
29%	60%	10%	1%				
29%	39%	20%	12%	11%	52%	32%	6%

美中生は授業の挨拶、チャイムスタートや授業の際の挨拶をしっかりと行っており、授業にしっかりと取り組む雰囲気ができる。 「授業はわかりやすい」の数値が向上している。特に授業中、友達や先生が話しているとき、「反応して（うなずき、相づちなど）聴いている」の数値が大きく向上しており、聴く意識が高まっていると考えられる。卒業後の進路、夢や仕事についてなど将来につながる数値は昨年度と同程度だが、やや向上している。全体的に昨年度後期から減少しているものではなく、ほぼ全てで向上が見られる。

後期は授業中の話す・聞く態度がよくなれば学習効果につながるので、生徒同士の対話の充実を引き続いだ意識させます。キャリア教育については、個人懇談や進路について調べたり体験したりする機会を増やしたりして、進路学習の充実を図ります。取り組んでみたい、解決したいと思うような課題の設定を心掛け、対話的で深い学びにつなげます。授業についての研究を教科や学校全体で行い、わかりやすい生徒の力がつく授業づくりを行っていきます。

○学校経営の5つの重点2 生徒指導の充実（安心して学べる学校づくり）について

a判定 ②毎日、朝食を食べて登校している

- ⑥社会のルール（自転車マナーや交通ルールなど）や学校の規則を守っている
- ④部活動や地域スポーツクラブの活動に積極的に参加している（参加していた）
- ③朝読書の時間は、静かに本を読んでいる
- ⑤掃除ははじめに行っている
- ①学校は楽しい
- ⑩授業と休み時間の切り替えを大切にし、時計をみて、時間を意識して行動している

b判定 ⑨場に応じた言葉遣いをしている

- ⑦自分の健康に関心をもち、規則正しい生活を身につけている
- ⑧自分のよいところを知っている

生徒				保護者			
A	B	C	D	A	B	C	D
82%	10%	5%	2%				
72%	26%	1%	0%	53%	45%	2%	0%
75%	20%	3%	2%	66%	23%	5%	5%
71%	25%	2%	1%				
60%	37%	2%	1%				
61%	37%	2%	0%	40%	52%	6%	2%
61%	36%	4%	0%				
48%	48%	4%	0%				
44%	43%	11%	3%	23%	54%	20%	3%
36%	40%	19%	6%				

美中生は「学校が楽しい」と感じている割合が多く、朝読書や掃除など、授業以外の諸活動にも落ち着いて真面目に取り組んでいる。「自分のよいところを知っている」生徒も毎年増加しており、生徒の自己肯定感が高まり、自分も友達も大切にできる生徒が増えていると考えられる。

後期は学校生活や学校行事でよい部分を認める場面を増やしたり、目標を設定し、振り返る場を工夫することで、さらに自己肯定感が高まるように努めます。

○学校経営の5つの重点3

心の教育の推進（いじめや不登校の未然防止）について

a判定 ⑤いじめられたり無視されたりすることなく安心して過ごしている

④悩みや心配事があるとき相談できる人がいる

①相手を思いやる言葉を使い、周りに困っている人がいたら助けたいと思う

②誰かがいじめや迷惑行為を受けている時、それを止めたいと思う

b判定 ③先生や友達は、自分の良いところや努力しているところを認めてくれていると思う

生徒				保護者			
A	B	C	D	A	B	C	D
83%	14%	1%	2%	59%	33%	3%	4%
56%	35%	7%	1%				
59%	39%	2%	0%				
50%	45%	5%	0%				
43%	47%	9%	1%	25%	68%	6%	1%

美中生はいじめられたり無視されたりすることなく安心して過ごすことができている。「いじめや迷惑行為を見たら、それを積極的に止めたいと思う」生徒も多く、いじめは許されないと感じる感覚が育つてきている。

後期も安心して過ごせる学校づくりを継続していきます。学校生活全般を通じて認め合える場面を意識し、生徒の自己肯定感が高まるように努めます。相談しやすい環境づくりにさらに努めています。

○学校経営の5つの重点4

生徒会活動の活性化（生徒の活動が見える学校）について

a判定 ①学級における決められた係の仕事や委員会活動などにきちんと取り組んでいる

②行事に積極的に参加し、学級のみんなや部活動のメンバーと協力し合っている

b判定 ③学校や地域・家庭で相手も自分も笑顔になるあいさつをしている

生徒				保護者			
A	B	C	D	A	B	C	D
67%	31%	1%	1%				
62%	36%	1%	1%				
				35%	51%	13%	2%

美中生は、行事への意欲がとても高く、積極的に取り組む。また、学級や委員会の仕事も前向きに取り組む生徒が多い。

後期は、様々な行事もあるので、それを美中生の成長の機会と捉え、学校・学年・学級でのつながりを深めていくことができるよう努めます。あいさつも生徒会、部活動、縦割り班の様々な取り組みを継続していき、質を高めていく努力をし、後期アンケートによって検証します。

○学校経営の5つの重点5

家庭・地域との連携（保護者、地域の願いと自己実現）について

a判定 ②学校は子どもや保護者の相談事によく対応している。

③学校だより、学年だより等の配布物やホームページには、よく目を通している。

①学校の教育方針や教育内容について理解している。

保護者			
A	B	C	D
28%	65%	6%	0%
27%	63%	10%	0%
14%	76%	9%	0%

家庭・地域との連携では、さまざまな学校行事や育友会総会等の集まりなどの機会を捉えて、教育方針・内容を訴えてきた。また、生徒・保護者のどちらの相談に対しても、迅速で丁寧な対応を心がけてきた。連絡ツールtotoruをつかった配布やホームページで生徒の様子をお知らせする機会を増やしているので「配布物やホームページによく目を通している」の数値も高い。

後期は、相談に対して情報の迅速な共有、適切な対応を継続します。配布物やホームページに関しては、配布時の学級での指導、メールでの配布物のメール配信などを活用し、お知らせしていきます。また、ホームページで生徒の様子を今後もタイムリーにお知らせしていきます。

○学校運営協議会委員より

・将来の進路について、現在の働き方と学習していることは合っているのか？

→学びの形や働き方などが急速に変化している今の時代において、生徒に必要なキャリア教育とは何か課題意識をもって模索していく。

・生徒はどんな職業に就きたいと思っているのか？

→生徒との個人懇談では「わからない」と回答が多い。自分の適性がわからないという面や、どんな職業があるのかわからないという面もあると考えられる。

→地域の中小企業の中にも世界を相手にしている企業もあり、色々な展開をしている。実際にゲストティーチャーになってもらったり、講演してもらったりして、今力を入れていることを話してもらうことも地域学習やキャリア学習の一環になる。

・生徒は仕事についてポジティブ、ネガティブどちらのイメージがあるか？

→昨年度3年生の学級でとったアンケートでは五分五分か、わずかにマイナスのイメージが多い印象であった。はっきりとは分からぬが、どちらにしても日頃家庭や学校で、教員や保護者の仕事に対するやるがい面や悩み等を見聞きしている影響もあるのではないか。職業講話や職場体験などの行事だけでなく、家庭での保護者との対話からもキャリア教育は始まる面もあり、家庭・地域・学校と連携していきたい。

学校評価の結果と学校関係者評価委員会の皆様や保護者のご意見をもとに、課題となっている項目を再検証し、学校生活がさらに向上していくように努めています。